

怪龍丸

帝キネ芦屋時代映畫

原作並脚色者
監督者
撮影者

小坂 老人氏
唐澤 弘光氏
立花 幹也氏

主要役割

怪龍丸船長	阪東 豊昇氏
神風龍之助	明石 緑郎氏
月村淳三郎	片岡 紅三郎氏
青柳浪之助	嵐 璃運三郎氏
島重造	齋田 幾三郎氏
佐野彌兵衛	實川 延笑氏
堀三木三郎	東 良之助氏
坂倉周平	嵐 獅迦平氏
船夫 舵六	岩井 竹縁氏
藝妓小菊	柳 まさ子嬢

解説——「白河小天狗」完成後暫く技術方面に従事して居た唐澤弘光氏が再び監督製作した時代劇である。

略筋——幕府の御用船と見れば用捨なく掠奪する海賊船怪龍丸は到る所幕吏を脅してゐた。浪花へ着くと乗組員の足は引摺られる様に紅燈の巻に向つた。船長龍之助は其夜救つた藝者小菊の移り香が忘れ得ぬものとなつた。しかし小菊は勤王志士月村のものを知れた時彼の心は暗くなつた。志士等は龍之助を得て戰機熟するを悦び、旗揚げの祝盃は本臺寺に擧げられた。彼等の意氣は天を衝く感があつた。折柄押寄せた幕吏に向つた。彼等の輩物は紫電

の如く閃めいたしかし衆寡敵せず、龍之助は傷き健氣な小菊は月村を庇はんとして双に仆れた鬼神も怖れぬ彼等も俠妓小菊の心根に感謝の涙を注ぐのであつた、やがて繩を解いた怪龍丸は彼女の死を悼むが如く滑るが如く静かに沖へくゞ大志を抱く人々を乗せて行くのであつた。